

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(208)(HP 収載) —モーツァルトの新発見作品(2)—

1. 始めに

前報(207)に引き続き、STAGE+のモーツァルトの新発見作品の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のモーツァルトの新発見作品の演奏を選びました。

モーツァルト：セレナードハ長調 K. 648 《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》
(オーケストラ版) (世界初録音)

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団, ヘルベルト・ブロムシュテット
ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

セレナード ハ長調 K. 648 《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》
(オーケストラ版)

第3楽章 Menuet [I]と第6楽章 Menuet [II] は、オーケストラに代わって、次のメンバーでの演奏です。

Trio セバスティアン・プロイニンガー

ペーター・ゲルラッハ, フェリックス・ライスナー, オスカー・ヨッケル



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用して

います。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への **Crystal EpY-G** の接続を継続しています。

前報(207)では、同じ曲の2丁のヴァイオリン、コントラバスとチェンバロによるアンサンブル編成でしたが、今回はオーケストラ版です。

アンサンブル版に比べてゲヴァントハウスによる演奏ですので、迫力が違います。

弦は艶やかに、コントラバスは量感たっぷりです。

最新の録音であり、**Crystal EpY-G** の効果も加わっているせいか、この曲の魅力を余すところなく伝えてくれています。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果に **Crystal EpY-G** の効果も加わって、モーツァルトの新発見作品である、《ガンツ・クライネ・ナハトムジーク》のオーケストラ盤が魅力ある曲であることが分かりました。

以上